

妙安寺だより 301号

お盆

八月は各お寺で盂蘭盆会の行事が行われます。

盂蘭盆とは、「逆さに吊るされた苦しみを救う」という意味のサンスクリット語（古代インドの言葉）です。

盂蘭盆会は、お釈迦様の弟子である目連尊者が「亡くなった自分の母が、地獄に落ちて逆さ吊りの罰を受けて苦しんでいます、どうしたら救われるのでしょうか」と、お釈迦様に教えを請うたところ、「7月15日に夏の修行を終えた僧たちの力を借りて供養しなさい」といわれて、母の供養をして救われた、というところから始まった行事です。

13日の夕方になると、先祖の霊が迷わずに帰ってこられるようにと、家の門前で迎え火を燃やします。そして、仏壇の前に盆棚（精霊棚）を設け、季節の果物や野菜、ご飯や水を供えます。

さらに、キュウリで作った馬の人形は、祖先の霊が馬に乗って、この世に早く帰ってくるように、また、ナスで作った牛に乗って、あの世にゆっくり帰っていくようにと考えられていたためです。

この期間には、僧侶を招いて読経（棚経といいますが）をあげ、祖先の供養をしていただきます。

特に、この年に初盆または新盆を迎える仏様には、手厚く供養することが大切です。

16日には、家の門前で送り火を燃やして、祖先の霊の帰り道を明るく照らして送り出し、盆棚に供えられた供養物は、川や海に流す「精霊流し」を行ないますが、近年は、各校区ごとに集められることが多いようです。

また、精霊流し的一种として「灯籠流し」を行なう地域もあります。これは、灯籠にロウソクの火を灯して、川や海に流すと、精霊がその灯籠に乗って、川を下って海に出て、さらに、あの世に帰っていくと考えられたためです。

盂蘭盆会 お施餓鬼法要

8月18日(火曜日)

午後1時より

お施餓鬼法要

午後2時より

法話

演題 「仏説 桃太郎」

昔話の「桃太郎」を、仏教的にアレンジした法話を住職がいたします。

す。

※正午 お齋(オトキ)

※12日・13日・14日は、午前11時と午後3時に、15日は午前11時と午後4時に、住職がお寺にて読誦回向をしますので、御自由にお参り下さい。

※ソトバ供養御希望の方は、同封の申込書にて早めにお申し込み下さい。 1霊位 2,000円です

お盆の回向(棚経)は、副住職がお伺いいたします。お盆期間中お留守の方は早めに御連絡下さい。

なお、お伺いする時間の問い合わせについては、なるべく御遠慮下さい。

笑いの泉

仏教では、漢字を略し、一部のつくりだけで表す古くからの表記法があります。

例えば「菩薩」は「ササ」、「清浄」は「水水」、「作法」は「乍去」、「私」は「ム」というように略して書きます。

ところで、ある若い僧が、「女女世界是衆苦本源也」という文を見て

「女の満ちている世界は、これ衆(もろもろ)の本源なりか、うまいこと言うなあ」とつぶやいた。

それを聞いた友人

「バカだなあ、女女と書いて、女々(めめ)しいと読むんだ。この世界を女々しく生きる者は、多くの苦しむを生む、という意味だよ」と言った。これを恥の上塗りといいますが。

「女女」は「娑婆」の略字で、すなわち「娑婆世界は、これ衆苦の本源なり」と読みます。

ホントに、娑婆に生きることは、恥多き生涯のようです。

